

JASIS 2017 見聞録

「未来発見。Discover the Future.」がキャッチフレーズ。秋の恒例イベントである分析機器・科学機器に関するアジア最大級の国際展示会 JASIS 2017 が 9 月 6 日（水）から 8 日（金）で盛大に開催されました。会場の幕張メッセ国際展示場（千葉県）は、ご存知のとおり、日本を代表するコンベンション施設の一つです。主要ターミナルである東京駅、羽田空港、成田空港からのアクセスの良さが特長で、今年の来場者数は 24,856 名（5 日（火）開催のコンファレンス来場者を含む）に達しました。総出展社数 506 社（うち、海外 23 社）と総出展小間数 1,478 小間（海外 26 小間）は、来場者数とあわせて過去最大の数字です。また、出展社による新技術説明会も大変活気があり、1 日目 4,511 名、2 日目 5,583 名、3 日目 5,907 名と徐々にその数を増やし、3 日間合計の聴講者は 16,001 名に上りました。さらに今年 JASIS の会期を考慮し、第 66 年会（9 月 9 日（土）～12 日（火）、東京理科大学葛飾キャンパス）が続けて開催されたこともあって、JASIS と年会の両方に足を運ばれた方も大勢いらっしゃったのではないのでしょうか。JASIS で最新機種を調査し、そして年会で最先端の研究を聴講できた今回の試みは大変新鮮でありました。

JASIS 2017 の概要や特徴を取材するため、2 日目にあたる 7 日（木）に事務局本部を訪れました。10 時からの取材時間にあわせて会場へ向かうと、ホール入口前の通路にはアジア最大級にふさわしく、日本語、中国語、韓国語、英語で書かれたポスターが列をなして掲示されていました。受付では多少の混雑を予想していましたが、昨年同様、早期の事前登録が浸透していたようで、スムーズに会場入りすることができました。また、スマートフォンやタブレットから JASIS 公式アプリを使って、案内図やタイムテーブルを参照されている方の姿も多く見受けられました。

今回の取材では、JASIS 委員会委員長である長谷川武義氏、技術委員会委員長の杉沢寿志氏、事務局長の片岡信義氏が温かく出迎えてくださいました。JASIS 2017 を新委員長として開催することになった長谷川氏からは、目玉の一つである WebExpo についてお話を伺いました。WebExpo とは、従来の「会期は 3 日間、会場は幕張」の殻を破って、「150 日間、どこからでも」参加、出展できることをコンセプトに Web 空間に創られたセミナー及び展示会場のことです。実際の会場である幕張メッセのアクセスの良さは上述のとおりですが、それでも関西以西からの来場者数は伸び悩んでいたようです。さらに、新技術説明会のほか、「ライフサイエンスイノベーションゾーン」、「オープンソリューションフォーラム[®]」、「サイエンスセミナー」などの企画が活況である一方で、満席で事前予約できなかった、もしくは、タイムテーブルが重なってしまったために聴講できなかったとの声が多数上がっていました。このような声を受けて、実際に来場できなかった方や講演を聞き逃した方の要望を叶えるため、WebExpo の実現に至ったと

のことでした。初回となる JASIS WebExpo 2017 は、JASIS 2017 以前からスタートした pre-JASIS（7 月 3 日（月）より）と会期後から始まった after-JASIS（9 月末より順次）の前後期に分かれます。まず、pre-JASIS では昨年開催された JASIS 2016 で人気の高かったライフサイエンスイノベーションゾーンとオープンソリューションフォーラムの基調講演（計 24 タイトル）の動画が公開されました。さらに、after-JASIS では JASIS 2017 の人気講演（30 タイトル以上）と出展した 500 社のうち 120 社以上の PDF 資料が Web 上で閲覧できるようになりました。実際に来場できた方にとっても WebExpo 開催のメリットは大きく、pre-JASIS で予習、会期中には実機や新技術を目の前で体感、そして after-JASIS で復習が可能になります。将来的には、WebExpo の機能が展示ホールにまで拡張され、遠方に居ながらにして各社のブースを回って商談をすすめる、といったことが可能になるかもしれません。WebExpo 2017 は 11 月 30 日（木）までの会期です。WebExpo は JASIS 2018 以降も開催される予定ですので、ご興味のある方は、JASIS ホームページやメールマガジンのチェックを忘れないようにして下さい。

メインの展示会場は、幕張メッセ国際展示場の 4～8 ホールで行われました（写真 1）。4 ホールで開催された今回で 2 回目となる「オープンソリューションフォーラム」では、サブタイトルが～テーマ別 新技術説明会～として、「今」ユーザーに最も関心の高いテーマ「環境規制」、「食品のおいしさ評価」、「自動車」を 1 日 1 テーマずつ取り上げ、先端的な研究者・技術者による基調講演（2 件）と出展各社の主力製品を用いたアプリケーション（6～7 件）を聴講することができました。テーマに沿った最先端の情報と技術をまとめて聴講でき、ホール会場内で足も運びやすく、終了後には発表した企業のブースへ行くと、実際の装置にふれて質問できるのも嬉しいところです。長谷川委員長によると、ユーザーにとって効率よく情報収集できるのと同時に、出展各社にとってオープンな情報発信により業界内の技術連携を促すことをも目指しているということで、これも副次的



写真 1 展示会場風景



写真2 ライフサイエンスイノベーションゾーン



写真3 幕張メッセ国際会議場での講演風景



写真4 新技術説明会

にユーザーにとって嬉しいところです。

8ホールでは、2013年から継続している「先端診断イノベーションゾーン」を進化・拡大させた「ライフサイエンスイノベーションゾーン」として、「未来」を支える約60社の出展企業・団体の展示と先端技術の基調講演28件、講演者によるパネルディスカッションがあり、活発な討論がされていました（写真2）。ゾーンの来場者が必要とする技術をAIで検索する新しいシステムが導入され、商談ラウンジもあり、ライフサイエンス市場をリードする分析技術の集いとなっていました。これら二つの「今」から「未来」につながる特別企画、そして新製品やアピールしたい技術が並ぶ展示会場全体に、出展各社と来場者の生の交流があり、新しいソリューションの発見ができたのではないのでしょうか。

例年どおり、JASIS コンファレンスが国際会議場、新技術説明会が隣接するアパホテル&リゾート〈東京ベ



ポスター1 JASIS 2018 のポスター

イ幕張）とホテルニューオータニ幕張で行われました（写真3, 4）。コンファレンス会場では、「国際ショナルコンファレンスセッション」として、米国 Pitcon 委員会・ドイツ化学会との国際化学シンポジウムやアジア各国の友好団体と連携したフォーラム、英国国立化学会の東京国際コンファレンスがあり、国際的に JASIS が情報を発信する場となっています。その他学会や研究機関の研究発表やセミナー、JAIMA の「これであなたも専門家…編」や日科協の分析セミナーなど、先端研究の情報から基礎的な分析技術まで専門家の話があり、様々な参加者に満足できる内容でした。また、新技術説明会の会場では、101社から347の新製品、新技術の紹介があり、こちらも目当ての発表に多くの参加者が足を運んでいました。同じ分析機器が重ならないよう3日間のプログラム編成には苦労されているということで、このような工夫が参加者にとってより有益なものになっているのを感じました。

来年の JASIS 2018 は、今年と同じ千葉市の幕張メッセで9月5日（水）から7日（金）までの3日間開催されます（ポスター1）。そして、その後2019年2月5日（火）から7日（木）に、大阪での JASIS 開催が決定しました。これまで関西以西の遠方でなかなか来場できなかった方に朗報です。今後、2年に1回の開催を予定しており、ぜひ JASIS を大阪でも体験して下さい。今年の会場での配布物の一つに JASIS 2012 から5年間で認定された「分析機器・科学機器遺産」をまとめた書籍があり、日本が誇る先人の知恵と経験に想いを馳せ、過去から未来へと続くイノベーションを来年も楽しみたいと思いながら、会場を後にしました。

最後に取材にあたりお忙しい中丁寧なご対応を頂きました JASIS 委員会および事務局の皆様、この場をかりて御礼を申し上げます。

〔日産化学工業(株) 中島淳一〕
〔ニチアス(株) 橋本知美〕